

論理的思考教育を基礎とする パラグラフ・ライティングの段階的指導

－実践報告 1－

菊地 則行

1. はじめに

本実践の目標は、論理的思考力と論理的文章力を教育することである。具体的には、根拠と主張、ワラントから構成される論証による思考方法と、パラグラフ・ライティングによる文章作成法を教育し、並列接続関係のパラグラフで構成された 800 字程度の小論文を作成させることである。

授業内容としては、思考方法の教育で用いたキーワード間の関係を文章作成法の教育にも適用し、教育の内容に系統性、一貫性を持たせた。具体的には、論証での主張と根拠、ワラントの 3 者の関係をパラグラフ・ライティングでのトピック・センテンスとサポーターティング・センテンス関係にも適用して授業を行った。

授業方法としては、重点項目での講義・演習・グループ内での意見交換・発表を重視した。また、課題レポートを作業シートを使って段階的に作成させた。

2. 授業内容・方法

授業内容は、テキストから重点項目内容と基本項目内容を設定した。14 回の授業では、まず重点項目あるいは基本項目として設定したテキスト内容の講義・演習を行い、その後統一テーマで取り組ませた論文作成のための演習指導を行った。授業の進行は表-1 の授業進行・回数に示した通りである。

表 - 1

授業進行・回数	2018年度・AS1テキスト 総目次		内容 キーワード	重点的 取り組み	基本的 取り組み
	1	論理的に考える			
第1-3回	1.1.	まずは、「論理的に考える」ことから	論理、論証(根拠-主張)	○	
第4-6回	1.2.	言葉を定義しよう			○
	1.3.	論理には2種類ある-演繹と帰納			○
	1.3.1.	演繹的論証			
	1.3.2.	帰納的論証			
	コラム	仮説演繹法			
	1.4.	論理をどう文章理解につなげるか-言葉と言葉のつながりを意識しよう			
	1.5.	論証の図式化	根拠-ワラント-主張	○	
	1.5.1.	ワラントを推定する			
1.5.2.	複雑な論証の図式化-論証の拡張				
	1.6.	論証への反論			○
	コラム	反論と対立議論との違い-水掛け論を避けるためには			
	2	論理的に読む			
第7回	2.0.	はじめに			
	2.1.	読解のステップ①主張・根拠、②ワラントの推定、③論証を組み立て直す	論証のルールの適用、根拠・ワラントになる当該分野の知識の必要性	○	
	2.2.	要約と要旨のつくりかた			○
	3	論理的に書く			
	3.1.	文章を書くための心構え			
	3.1.1.	ハンバーガー構造は安くて早くておいしい			
	3.1.2.	はっきり言い切る勇気、無難にまとめる非礼			
	3.1.3.	ワープロは文章執筆のモビルスーツ			
	3.1.4.	見せるは一時の恥、見せぬは一生の恥			

表－1（続き）

第8－10回	3.2.	わかりやすい文の書き方	単短文、論理関係明示語	○
	3.2.1.	文の書き方		
	3.2.2.	文章の書き方		
	3.3.	パラグラフを作る－論理構造を持つ最小の要素－	パラグラフ内構造－TSとSSで構成文の直列・並列接続 ↓ ↓	○
	3.3.1.	パラグラフ・ライティングの定義と具体例		
	3.3.2.	パラグラフの内部構造		
3.3.3.	直列接続と並列接続			
第10回 (一部を含む)	3.4.	節を作る－パラグラフをつないでハンバーガー構造を作る－	パラグラフ間構造－TP(「トピックパラグラフ」)とSP(「サポーティング・パラグラフ」)で構成パラグラフの並列接続型	△ (一部を含む)
	3.4.1.	節のコアメッセージを一文でまとめる		
	3.4.2.	パラグラフの接続パターン－直列と並列－		
	3.4.2.1	結論の方向へ論理的に接続する直列の関係		
	3.4.2.2	同じ種類のパラグラフが並列に接続する横の関係		
	3.4.2.3	直列・並列が混在する接続パターン		
	3.4.3.	文章の論理性をチェックする方法		
	3.5.	文章全体を作る－Thesis statementとアウトライン－		
	3.5.1.	Thesis statement－文章の「核」を考える－		
	3.5.2.	アウトラインを描く－自転車には補助輪付きで乗ろう－		
	3.5.3.	Thesis statementとアウトラインの具体的な作り方		
	3.6.	文献検索と引用－巨人の肩の上に立つために－		
	3.6.1.	文献検索のやり方		
	3.6.2.	文章執筆と引用のやり方		○
	3.7.	イントロダクションとコンクルージョン－大事な最後のラッピング－		
	3.7.1.	イントロダクション－文章のキャッチコピーを作る－		
	3.7.2.	コンクルージョン－読み手へ渡す玉手箱－		
	3.7.3.	タイトルと見出し		
	3.8.	終わりに－推敲とプレゼンテーション－		
	3.8.1.	推敲！推敲！推敲！		
	3.8.2.	プレゼンテーションもハンバーガー構造		
	3.8.3.	今後の学習に向けて		

2.1. 重点項目

重点項目内容では、次のように授業を行った。

- ・教員が当該内容を講義する。
- ・学生が教科書の該当箇所を各自学習し、疑問点があれば教員に質問をする。
- ・3人から4人のグループに分かれ、テキストの演習問題に取り組み、グループとしての解答を作成する。
- ・グループごとに指定された演習問題の解答をクラス全体に発表し、質疑応答をする。

この際、「講義」では、その授業時の中心的な内容を簡潔な例を使いながら説明することを心掛けた。グループ演習では、テキストにある練習問題のうちわかりやすい問題に取り組みさせた。

重点項目は以下の通りである。

- ・「1.1. まずは、論理的に考えることから」
- ・「1.5. 論証の図式化」

内容は、論理的に考えるとは論証を使って考えることである。論証は主張と根拠、ワラントから構成される。

- ・「2.1. 読解のステップ」

内容は、論理的に読むとは、論証のルールを適用して読むことである。読解力を増すためには、根拠やワラントの妥当性の判断に関わる当該分野の知識が必要である。

- ・「3.3. パラグラフをつくる」(3.4.の一部を含む)

内容は、1つのパラグラフは、1つのトピック・センテンス (TS) と TS に関係する1つあるいは複数サポーティング・センテンス (SS) から構成される。SS 間の関係には、直列接続関係と並列接続関係がある。パラグラフ間には、「トピック・パラグラフ」(TP) と TP に関係する「サポーティング・パラグラフ」(SP) の関係がある。SP 間の関係には、直列接続関係と並列接続関係がある。TS、TP は論証における主張、SS、SP は根拠・ワラントの役割を果たす。

2.2. 基本項目

基本項目内容では、次のように授業を行った。

- ・教員が当該内容を講義する。
- ・学生が教科書の該当箇所を各自学習し、疑問点があれば教員に質問をする。

基本項目は以下の通りである。

- ・「1.2. 言葉を定義しよう」
- ・「1.3. 論理には2種類ある」
- ・「1.6. 論証への反論」
- ・「2.2. 要約と要旨のつくりかた」
- ・「3.2. わかりやすい文の書き方」
- ・「3.6.2. 文章執筆と引用のやり方」

2.3. 課題レポート作成

課題レポートの指導・作成の授業では、「私のアカデミックスキル1の成績は** (たとえばA) である」という主張を根拠を3つあげて論じる800字程度のレポートを、パラグラフ・ライティングシートを使って段階的に指導し、作成させた。

授業進行は次の通りである。

複数のパラグラフの場合は、主張と複数の根拠をそれぞれに1つのパラグラフのTSとして構成されるパラグラフ・ライティングの書き方を指導した。主張文が第1パラグラフのTS、根拠1が第2パラグラフのTS、根拠2が第3パラグラフのTSになること指導し、学生に任意の文でこれらにあたる文を作成させた(図-2参照)。

	TS	SS	SSS
第1 パラ グラフ	私はラーメンが好きだ。(主張)		
		その理由は、2つある。	
	TS	SS	SSS
第2 パラ グラフ	1つ目の理由は、・・・・・・・・・・である。		
	TS	SS	SSS
第3 パラ グラフ	2つ目の理由は、・・・・・・・・・・である。		
	TS	SS	SSS
第4 パラ グラフ	以上のような理由で、私はラーメンが好きである。		

図-2

2.3.2. 各パラグラフのトピック・センテンスの指導

課題レポートを、シートを使って段階的に作成させた。その際、「わたしのアカデミックスキル1の評価は*である」という主張の文をTSとする第1パラグラフをトピック・パラグラフ (TP)、根拠の文をTSとする第2、3、4パラグラフをサポート・パラグラフ (SP) と呼ぶことにして指導した。これは、パラグラフ内でのTSとSSの関係をパラグラフ間の関係に適用し、パラグラフ間 (TPとSP) の構造つまり文章の構造をパラグラフィティグ的に組み立てさせるための指導である。そして、このTP、SPの内容的な関係を新聞記事に準え、文章 (レポート) のタイトルが新聞の見出し、TPがリード (前文)、SSが本文に該当することを実際の新聞記事を示して説明し、タイトル、TP、SSの関係、果たす役割を指導した。その後、課題テーマについて主張をTPのTS、3つの理由を3つのSPそれぞれのTSとして、シートに書き込ませた (図-3参照)。

テーマ「アカデミックスキル1の自己評価」

	TS	SS	SSS
トピック パラ グラフ	私のアカデミックスキル1の評価は*である。		
サポー ティ ング バラ グラフ	1つ目の理由は、.....である。		
サポー ティ ング バラ グラフ	2つ目の理由は、.....である。		
サポー ティ ング バラ グラフ	3つ目の理由は、.....である。		

新聞記事の例:

佐川氏答弁後に廃棄

森友記録 財務省、整合性図る

昭恵氏付職員の照会記述

イラン 防衛

図-3

2.3.3. 各パラグラフのサポーター・センテンスの指導

SP の TS である評価の理由・根拠が妥当な理由・根拠であることを説明する SS を授業のシラバス・教科書から引用して記入させた。その際、引用の仕方を指導した。TP の TS である自己評価の文（主張）に対して各 SP の TS は理由・根拠であり、なぜ理由・根拠であることを説明する SS はワラントの役割になることを指導した（図－4 参照）。

テーマ「アカデミックスキル1の自己評価」			
	TS	SS	SSS
トピック パラグラフ	私のアカデミックスキル1の評価は*である。		
サポーター パラグラフ	1つ目の理由は、・・・・・・・・である。	なぜなら、文セ（2018）には「あなたの考えと文献の著者の考えは、はっきりと区別できるようにしなければなりません」とあるからです。	
サポーター パラグラフ	2つ目の理由は、論証を理解し、文章を読むときに使えるようになったからである。	なぜ論証を理解し、使えるようになったことがAの評価になるかといえば、文セ（2018）に論証は本授業の重点目標だとあるからだ。	
サポーター パラグラフ	3つ目の理由は、・・・・・・・・である。		

← 〔直訳用〕
引用文献
文セ、2018、アカデミックスキル1、文セ出版、p64

← 〔間訳用〕
引用文献
文セ、2018、アカデミックスキル1、文セ出版、p64

図－4

2.3.4 説得力を増すための指導

TP を読むだけで文章の概要がおおよそ解る程度の内容にするためにはどうしたらよいか、そして各 SP の説得力を増すためにはどのような SS を付け足せばよいかを考えさせ記入させた (図-5 参照)。

	TS	SS	SSS
トピック パラグラフ	テーマ「アカデミックスキル」の自己評価 私のアカデミックスキル1の評価は*である。		
	TPの情報量を増やすにはどうしたらよいか？ TPだけを読んで文章全体の大筋が解るようになるためにはどうしたらよいか？		
サポーター グラフ	1つ目の理由は、・・・・・・・・である。 なぜなら、文セ(2018)には「あなたの考えと文献の著者の考えは、はっきりと区別できるようにしなければなりません」とあるからです。		
	引用文献 文セ、2018、アカデミックスキル1、文セ出版 p54		
サポーター グラフ	2つ目の理由は、論証を理解し、文章を読むときに使えるようになったからである。 なぜ論証を理解し、使えるようになったことがAの評価になるかといえば、文セ(2018)に 論証は本授業の重点目標だとあるからだ。		
	引用文献 文セ、2018、アカデミックスキル1、文セ出版 p54		
サポーター グラフ	3つ目の理由は、・・・・・・・・である。		

昭恵氏付職員の照会記述

森友記録 財務省、整合性図る

佐川氏答弁後に廃棄

イラスト

防衛

図-5

3. 教育効果

アカデミックスキル 1 の共通目標を評価基準として前述のレポートを評価した結果によれば、本授業の教育効果は高かった。レポートを提出した 29 人名、80 点以上が 23 名 (79%)、100 点が 9 人 31% だった。これは課題レポートの作成を作業シートを使って段階的に指導し、学生が個人・グループで執筆・検討して課題レポートの原案を作成し、その原案に基づいてレポートを執筆、完成させたことによるものと思われる (表-2 参照)。

レポートで減点された主な内容は、引用の「表記」(様式) だった。演習時間が足りなかったためと思われる (表-3 参照)。

100 点だったレポートの例を資料として付けてある¹。論証を使った思考、パラグラフ・ライティングによる文章作成、引用の仕方の 3 つの教育目標に到達しているレポートである。なお、100 点でなかったレポートも論証を使った思考、パラグラフ・ライティングによる文章作成はほぼ目標を達成している内容だった²。

表-2

点数	人数
100点	9人
90点	8人
80点	6人
70点	4人
60点	2人
履修放棄	1人

表-3

学生	評価基準	論証(40点)				パラグラフ・ライティング(40点)			引用(20点)		その他
		主張	根拠	ワザント	具体例	TS先頭	SS成立	1パラ1TS	表記	引用内容	
9名	100点										
No.1	90点		* (説得力が少し足りない)								
No.2	90点									*	
No.3	90点								*		
No.4	90点								*		
No.5	90点								*		
No.6	90点								*		
No.7	90点								*		
No.8	90点								*		
No.9	80点							*			
No.10	80点								*	*	
No.11	80点										* (内容があまい)
No.12	80点						*		*		
No.13	80点			* (根拠の説明に必要)					*		
No.14	80点		* (一部にない)						*		
No.15	70点		* (恣意的)				*				*
No.16	70点										* (理由が2つだけ)
No.17	70点								*		* (理由が2つだけ)
No.18	70点		*				*		*		
No.19	60点		* (不十分)						*	*	* (文章表現)
No.20	60点						*		*		

*: 減点箇所

資料-1

¹ 執筆学生に掲載の許可を得て添付した。

² アカデミックスキル2の菊地担当クラスの学生で、アカデミックスキル1でも菊地担当クラスだった学生は、13名だった。その学生のうちアカデミックスキル2のレポートにパラグラフ・ライティングを使っている学生は13名中8名(62%)だった。アカデミックスキル1で扱ったのは並列接続関係のパラグラフ、アカデミックスキル2のレポート作成で使ったのは直列接続関係のパラグラフというように違うパラグラフ構造だった。しかし、今回のレポート作成上はとくに大きな支障はなく、アカデミックスキル1の教育効果はみられた。

私の AS1 の評価は A である。授業で使用したテキストとシラバスを評価観点として、「AS1 で学んだ知識を活用してレポートを書いていること」・「授業の積極性」・「文章と触れ合う機会を増やしたこと」の 3 つの理由を述べていこうと思う。

1 つ目の理由は、AS1 で学んだ知識を活用してこのレポートを書いていることである。シラバスの授業の目的と到達目標の 1 つに「レポートなどで正確な日本語で論理的な文章を書ける能力を身につけること」とある。これを達成するための 1 つとして今回のレポートを書いている。文セ 2018 (第 1 章表紙) の AS1 が目指す 3 つのゴールの中にパラグラフライティングに従った文章を書くというものもあり、それは論理的に書くことにもつながっている。また、文章を書く時に読みやすい文章を書くことに気をつけている。そのためには読みやすい「文」を書かなければならず、自分は特に句読点の位置に気を配りながら今回のレポートを書いている。文セ 2018 (第 3 章 PP. 17-18) に句読点のことが書かれている。「読点は適当に打ってはいけません。」とあり、自分は文を書くときにそこにも十分注意して書いている。このように論理的に書くために授業で学んだことを活用しているのは評価できるポイントである。

2 つ目の理由は、授業の積極性である。菊池先生のクラスは 3 人 1 組のグループ活動が多く、自主的な活動ができた。グループ活動の際には、同じグループになった人と意見を出し合いながら問題の答えを探ることができた。また、グループ毎に発表がある時は積極的に代表発表者となり発表できた。なぜこのような積極性が評価になるかということ、文セ 2018 (第 3 章 PP. 11-12) に「自分の文章を他人に見てもらふこと重要です」や、自分で書いた文章を恥ずかしがって誰にも見せないのは良くないという旨のことが書かれている。他人に文章を見せることがどう積極性につながるのかということ、消極的な場合、自分のまとめた文章や考えを発表しないことの方が多い。それは良くないことである。しかし、グループ内で発表、グループの代表として他グループに意見を発表ができていたのは積極的だと判断できる。

3 つ目の理由は、文章と触れ合う機会を増やしたことである。なぜ文章と触れ合う機会を増やすことが評価されるかということ、文セ 2018 (第 2 章 P. 1) に論理的な文章読解とは論証を使って文章を分析すること。と書かれている。文章に触れ合う機会を増やせば、難しい文章を読んだりすることにも慣れる。また、論理的に考えようとする力が養われる。自分も社説などといった以前はあまり触れていなかった少し難しい文章を論理的に読んでみようと思えることが増えた。以上に挙げた理由から私の AS1 の評価は A であると言える。

引用文献

- ・文化研究センター 2018 アカデミックスキル 第 1～3 章 文化研究センター出版社
- ・会津大学シラバス 会津大学 2018 年 シラバス 2018 年度シラバス学部 http://web-ext.u-aizu.ac.jp/official/curriculum/syllabus/2018_1_J_001.html#HS20

私のアカデミックスキル1の評価はAである。その理由は3つあり、本講義のシラバスやテキストの観点から判断した。また、評価基準は会津大学が導入しているGPAの評価と点数の関係に基づき、80~100点を満たせばA評価とした。

1つ目の理由は、1度も欠席せずに授業へ参加していたからだ。なぜそれが理由となるのかというと、本講義のシラバス(2018)の授業評価の方法・基準という項目に、「学生の授業参加と到達目標に応じた課題により評価が行われる。」とあるからである。従って、すべての授業へ出席していることはこの基準を満たしているといえる。

2つ目の理由は、パラグラフ・ライティングに従った文章を書けるようになったからだ。なぜそれが理由になるのかというと、文化研究センター(2018)には、本講義の到達目標としてパラグラフ・ライティングに従った文章を書くということが挙げられているからである。私は以前まで文章を書いた経験がなかったが、講義の中でパラグラフ・ライティングという文章を書く技術を学んだことで論理的に書くことができるようになった。実際、コンピュータリテラシーの課題のレポートでパラグラフ・ライティングを意識して書いた結果、スムーズに文章を書くことができたし、評価は100点中100点だった。従って、私はパラグラフ・ライティングに従った文章を書けるようになったといえる。

3つ目の理由は、論証を行った文章を書くことが出来るようになったからだ。なぜそれが理由になるのかというと、文化研究センター(2018)の本講義の到達目標として論証を行った文章を書くということが挙げられているからである。本レポートでも、各パラグラフにおいて主張と根拠、ワラントを用いて論証を行っている。従って、論証を行った文章が書けるようになったといえる。

引用文献

会津大学,2018,2018年度 シラバス学部,

http://web-ext.u-aizu.ac.jp/official/curriculum/syllabus/2018_1_J_001.html#HS20,

[2018.06.10閲覧].

文化研究センター,2018,『アカデミックスキル1第1章』文化研究センター出版,表紙.

文化研究センター,2018,『アカデミックスキル1第1章』文化研究センター出版,表紙.

私のアカデミックスキル1の成績は、Aです。その理由は3つあり、それを以下の段落で説明します。

1つ目の理由は、グループ活動に積極的に取り組んだことです。その例として、自分の文章を他のメンバーに見せながら、自分がどのような意図でその文を書いたのか説明したり、その内容が正確に伝わっているか、確認したことをあげます。また、他のメンバーの意見を踏まえての、自分の意見を伝えたりもしました。なぜ、グループ活動に積極的に参加する事が、私の成績がAであると言う事の理由になるかというと、自分の文章を他人に見てもらふことは、文章を書く能力が向上するからです（文セ、2018）。

2つ目の理由は、論理的な文章を読めるようになったからです。どのようにして読めるようになったかというと、土曜日の朝を論理的な文章を読む時間と決めて、毎週欠かさず読むことで、論理的な文章を読めるようになりました。どのくらい読めるようになったかというと、新聞の社説は、一度読むだけで理解できるくらい読めるようになりました。なぜ論理的な文章を読めるようになる事が、私のアカデミックスキル1の成績がAである、という事の理由になるのかというと、アカデミックスキル1では、「論理的に考え、読み、書く」ことを学ぶ為のものだからです（文セ、2018）。

3つ目の理由は、授業にきちんと出席したことです。具体的にいえば、アカデミックスキル1の授業は一度も休みませんでした。なぜこの事が、私のアカデミックスキル1の成績がAである、という事の理由になるのかというと、アカデミックスキル1の最初の授業で、菊池先生が「とりあえず、授業に参加することが大切です。授業に参加してください。」と言っていたからです。

以上の3つの理由より、私のアカデミックスキル1の成績はAです。

参考文献

文セ、2018、『アカデミックスキル1』文セ出版、p2

文セ、2018、『アカデミックスキル3』文セ出版、pp.11-12

私のアカデミックスキル1の評価Aである。アカデミックスキルの評価がAになるために必要な3つの論理的な能力「考える」「読む」「書く」がある。以下、その3つの能力について説明する。

一つ目は論理的に「考える」ということを理解したことだ。なぜ、論理的に「考える」ということがAの評価になるかといえば、文化研究センター(2018)によれば、「アカデミックスキル1」が目指す3つのゴールのうちの1つにしっかりとした論証を行った文章を書こう→論理的に考える」とあるように、論理的に「考える」ことがアカデミックスキル1の到達目標であるからだ。具体的にどのようなことを理解したかという、論証には主張・根拠という関係があることを知った。さらに、論証にはワラントという主張と根拠の橋渡しをする存在があることを知った。

二つ目は論理的に「読む」ということを理解したことだ。論証を「読む」というのは、文化研究センター(2018)によれば、「どのように複雑な文章であってもそれが論証に関わる文章である限り、そこには必ず主張、根拠があり、それらを取り出し再構成することを「論理的に読む」と呼ぶことにする。」とあり、再構成するということは、論証がより飲み込みやすい形にするということである。よって、これらを行うことで論証をより理解することができるので、論理的に「考える」で述べたようにアカデミックスキル1の到達目標につながり、評価につながるということが言える。さらに、菊池先生のクラスでは、グループで他の人の文章を読むことで論理的に「読む」ことの理解が深めることができた。その上、自分とは違う視点を持った人と話し合うことができたので、より読み手が読みやすい形の文章を作ることができた。

三つ目は論理的に「書く」ということを理解したことだ。具体的にどのようなことを理解したかという、ハンバーガー構造を利用しパラグラフライティングができるようになったことだ。なぜ、パラグラフライティングを行うことがAの評価になるかといえば、文化研究センター(2018)によれば、「アカデミックスキル1」が目指す3つのゴールのうちの1つにパラグラフライティングに従った文章を書こう→論理的に書く」とあるように、パラグラフライティングを使いこなし論理的に書けるようになることが、アカデミックスキル1の到達目標であるからだ。論理的に「書く」ことができるようになると、読み手に対して意思がうまく伝わるようになるので、大学のレポートや論文での評価も上がります。

引用文献

- 文化研究センター,2018,アカデミックスキル1 第1章,文化研究センター出版,P1
- 文化研究センター,2018,アカデミックスキル1 第2章,文化研究センター出版,P1
- 文化研究センター,2018,アカデミックスキル1 第1章,文化研究センター出版,P1